

昭和50年8月6日真室川洪水

最上川中流部

# 主な洪水の記録

建設省 新庄工事事務所



## 昭和42年8月28日洪水の記録

8月28日午前3時、前線は東北南部から北陸輪島の北をとおり、日本海北部の低気圧に達し、東に進むにつれその前線が北上し活動が活発になった。このため、夕刻から29日未明にかけて次第に雨は強まり、飯豊、朝日山系を中心に未曾有の集中豪雨となった。

このため8月28日の早朝から、河川の水位は、急激に上昇し、大石田町大石田の各観測所では、29日3時まで次々と警戒水位を突破した。

被害は、置賜地方全域から村山地方にかけて、死者8人、負傷者137人をだしたほか、家屋の流失167戸、床上浸水10,818戸、床下浸水11,066戸、農地等の浸水13,180ha等被害総額は85億円に達した。



最上川 昭和42年8月29日  
大石田町豊田地区（豊田部落 孤立）



## 昭和44年8月7日洪水の記録

7日の北日本は、東北地方南部を東西に横切る前線が発生し、この前線上を日本海西部にあって東進しつつあった低気圧は、月山、瀬見などに1時間20～40mmの豪雨をもたらした。総雨量は最上、庄内地方に最も多く150～200mmに達し、また村山地方は100～200mmに達した。このため最上川は7日夜半から急激に水位が上昇し、中流部から下流では、昭和42年8月の羽越豪雨以上の水位を記録し、とくに中流では鮭川、小国川等の水も加わり、各地で氾濫した。

被害は下流部の庄内、最上地方を中心に32市町村および昭和44年水害統計によれば死者1人、負傷者10人をはじめ、家屋の全壊流失15戸、半壊床上浸水1,210戸、床下浸水2,577戸、農地等の浸水約19,700haと甚大なもので被害総額は約52億円に達した。



最上川 昭和44年8月8日  
最上郡戸沢村地内（旧役場前の浸水状況）



最上川 昭和44年8月8日  
最上郡戸沢村古口地内（最上川氾濫により古口地区の浸水状況）



最上川 昭和44年8月8日  
最上郡戸沢村古口地内（泥海と化した古口の中心街）



# 昭和49年8月1日洪水の記録

北海道北部にある低気圧の中心から南西に日本海まで達する前線の活動が、山形、秋田の県境付近に停滞した前線が鳥海山、神室山を中心に局地的な大雨を降らせた総雨量は鳥海山293mmをはじめ新庄204mmであった。

このため支川鮭川での出水が大きく、真木、岩清水観測所で警戒水位を超え、鮭川流域に被害をもたらした。

この洪水により鮭川流域は集中的に甚大な被害をこうむり、昭和49年水害統計によれば、死者2人を出したほか、全壊流失3戸、床上浸水25戸、床下浸水1,970戸、耕地等の浸水6,818ha等、被害総額は約130億円に達した。

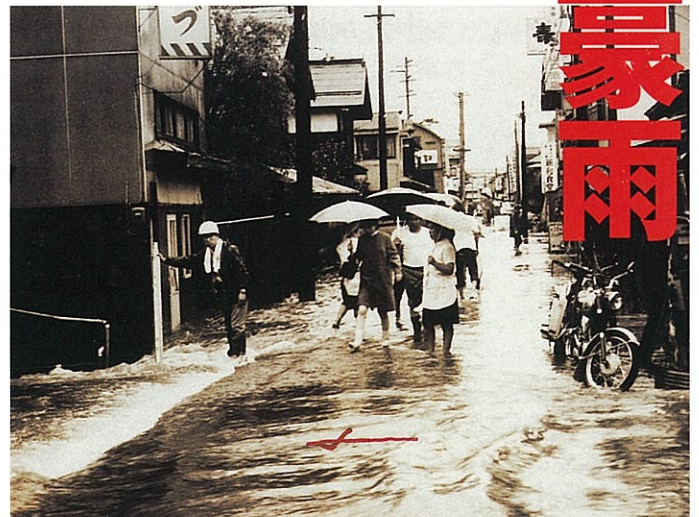


# 県北部に集中豪雨

最上川 昭和49年8月1日 新庄市本合海地内  
(水没した国道47号と田畑)



昭和49年8月1日 新庄市末広町睦橋付近(中の川)



昭和49年8月1日 新庄市住吉町地内(中の川)



昭和49年8月1日  
鉄砲水に襲われた新庄市街地(中の川)



昭和49年8月1日 減水中の跡片付 新庄市街地(中の川)



# 昭和50年8月6日洪水の記録

昭和50年8月5日から6日にかけて、オホーツク海にある低気圧から伸びる寒冷前線が、三陸沖から関東南部にまで達した。このため東北地方の日本海側では、各地で雷雨を伴った豪雨に見舞われた。特に最上川支川鮭川上流域が集中豪雨の雨域の中心であった。このため、支川鮭川、真室川、金山川等の出水は、8月6日明け方から始まり真室川の新橋では13時30分に計画高水位を越え、その後堤防を越流した。

被害は、鮭川流域に集中し、流域の中心地である真室川町は、一瞬のうちに3分1の町が濁流にのまれてしまった。昭和50年水害統計によれば、死者4人、負傷者24人、行方不明1人をはじめ、家屋全壊53戸、半壊62戸、床上浸水331戸、床下浸水457戸、耕地等の冠水3,407haに及び、被害総額は約99億円に達した。



# 濁流の真室川

最上川支川真室川 昭和50年8月6日  
最上郡真室川町 市街地へ流れ込む濁流



最上川支川真室川 昭和50年8月6日 最上郡真室川町  
濁流により泥海と化した真室川町内



最上川支川真室川 昭和50年8月6日 最上郡真室川町  
流出寸前の真鶴橋



最上川右支川鮭川 昭和50年8月6日 最上郡真室川町  
堤防決壊、橋梁流失、路上にある流失家屋



最上川支川真室川 昭和50年8月6日 真室川町  
大滝地区 臨時停車の列車を土石流が襲う



昭和56年6月23日洪水の記録

# 交通網各地で寸断

台風5号及び梅雨前線の北上、さらに大陸からの深い気圧の谷の接近に伴い、22日明け方からは県南部を中心に時間雨量10mm前後、多いところで20mm以上の強雨が22日いっぱい断続的に降り続き、各地で総雨量100mmを越えた。

そのため、最上川中流管内の水位は22日夕方頃から急激に上昇し始め、大石田観測所では近年の出水にない上昇をみせ、警戒水位を2.20mを越えた。

大石田町では災害対策本部を設置して水防団や町民の協力により不眠不休の活動を行い、人命の安全と被害の未然防止に全力を尽くしたが、床上浸水10戸、床下浸水12戸、田畑の冠水約200haという大きな被害をこうむった。



最上川 昭和56年6月23日 大石田町新町地内  
県道大石田土生田線が水没



最上川 昭和56年6月23日 大石田町豊田地内  
浸水した大石田水道水源池



最上川 昭和56年6月23日 大石田町大浦地内  
住宅などに大きな被害を受ける



最上川 昭和56年6月23日 大石田町新町地内  
ゴミの流入を必死でくいとめる水防団



最上川 昭和56年6月23日 大石田町豊田地内  
水源地最大のピンチ

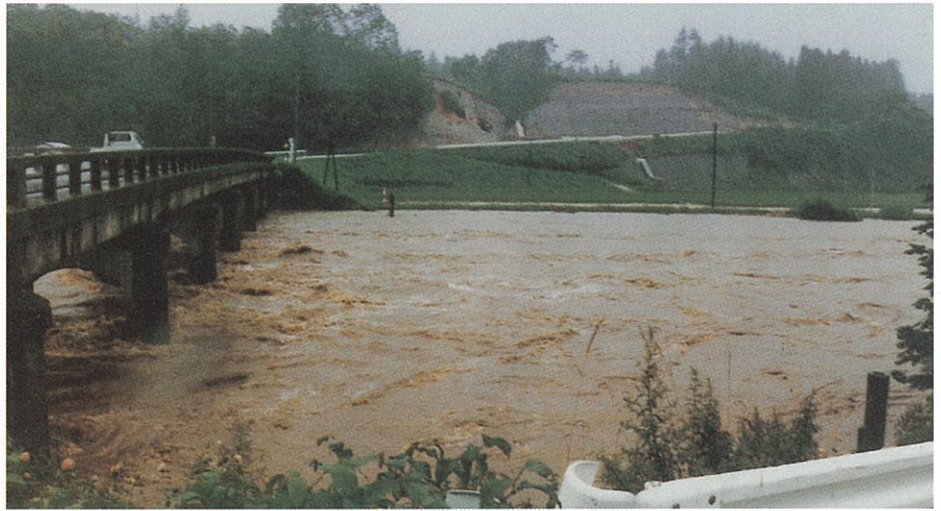


昭和58年7月26日洪水の記録

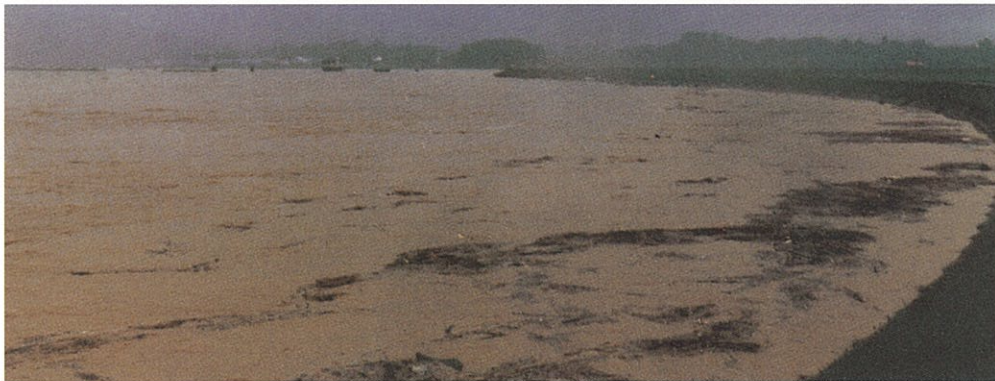
# 県北に集中豪雨

活発化した梅雨前線の北上に伴い、県内は気圧配置が不安定となり、県北を中心に26日昼頃から雨が降り始めた。各地で30mm～40mmの激しい雨となった。このため、最上川支川鮭川筋の各水位観測所は急激な水位上昇を見せ、警戒水位を大幅に越えた。この鮭川の出水の影響を受けて最上川本川の古口観測所でも警戒水位を記録した。

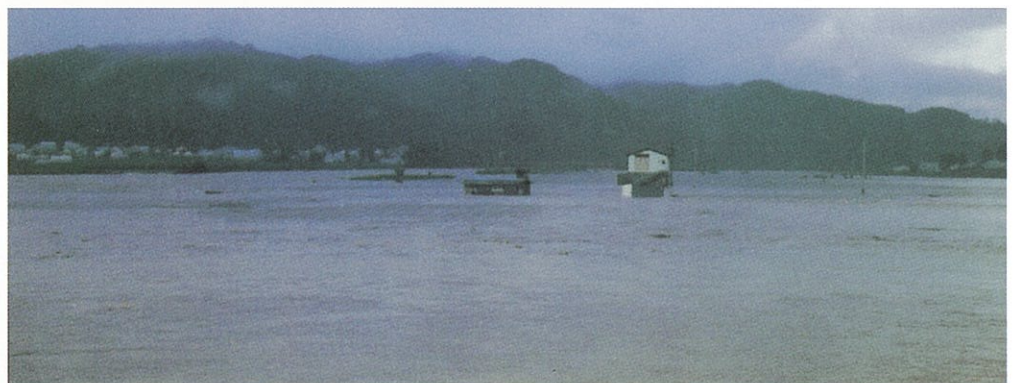
鮭川においては、この近年にない大出水の影響で、鮭川橋下流の小堤より越水して、県道が冠水し交通不能になったほか、鮭川沿線の家屋において床上、床下浸水や山崩れ等が発生した。



最上川支川鮭川 昭和58年7月26日  
八千代橋右岸下流より左岸を望む



最上川支川鮭川  
昭和58年7月26日  
最上郡鮭川村川口地内  
川口築堤流下状況



最上川支川鮭川  
昭和58年7月26日  
最上郡鮭川村川口地内  
作業小屋流失寸前



最上川支川鮭川  
昭和58年7月26日  
最上郡鮭川村川口地内  
川口地区浸水状況



平成9年6月29日洪水の記録

# 30年来の大

梅雨前線と台風8号の影響などで6月27日夕方から降り続いた大雨により、最上川は増水し、特に最上川中流部（大石田町～戸沢村）では、戦後の大洪水であった昭和42年8月29日洪水（羽越豪雨）、昭和44年8月8日に匹敵する大洪水となった。

このため、最上川中流部の水位は、28日朝から上昇し、各水位観測所（大石田、堀内、清水、本合海、古口）では、警戒水位に達し、その後さらに上昇し、各地で浸水被害や堤防の法崩れ等河川被害（16箇所）が発生した。

今回の洪水被害については、上流の寒河江ダム・大久保遊水池などによる洪水調節効果や河川改修の整備効果、各水防団の水防作業により、同規模出水である昭和42年洪水、昭和44年洪水等に比べ、建物被害が少なかった。



平成9年6月29日  
大石田地区全景

平成9年6月29日  
大氾濫となった清水・白須賀地区



平成9年6月29日  
堤防を守る水防団（大石田町豊田地区）



平成9年6月29日  
消防車20台により  
内水排除を行う  
舟形町堀内地内



# 洪水

## 氾濫状況



平成9年6月29日 冠水した白須賀地区



平成9年6月29日 白須賀地区全景



平成9年6月29日 最上川・鮭川合流地点全景



平成9年6月29日 本合海地区全景



平成9年6月29日 戸沢村金打坊地区



みずから守ろう、みんなの地域。  
5月は水防月間です。

水防のマスコット/ビーバーのまもる君

建設省 東北地方建設局  
新庄工事事務所

〒996-0071 新庄市小田島町5番55号 TEL0233 (22) 0251